

新聞雜誌

明治壬申八月

第五十六號



定價三匁

特	別
18	
787	
56	



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑怖ム一多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 大政ノ善ヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カ多キ世ニ生レシカヒ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始ノ諸府諸縣ノ變革
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ隨ヒ刊行スルハ我 日本國中
 ノ人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑在心僻ノル事ヲ棄ントテナリ 願ハ此冊子
 ヲ讀玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ノ驚可ク
 喜可キ事多ク唯一隅耳ヲ見ル田舎人タルヲ免レヌ夏虫氷ヲ疑ノ笑有リト知
 至ハサコノ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ヘケレ

新聞雜誌第五十六號 明治五年壬申



○七月中旬ノ御布告ニ今般神葬祭仰出サレ候ニ付テ
 ハ差向埋葬地コレナクテハ差支可申ニ付官方華族葬
 地ニ御取設有之候青山百人町續足シ山并ニ渋谷羽根
 津村兩地ノ所先以更ニ士民一般ノ葬地ニ相定ノ且地
 所取締ノ儀ハ左ノ神職共ハ申付候条取行ヒ埋葬地ニ
 差支候向自今右取締ノ者ハ一應引合理葬致候儀苦シ
 カラス候事

但地所引合候上ハ相當ノ手數料差出可申事

麻布本村町 氷川神社神職 青山久保町 熊野神
社神職 中渋谷村 金王八幡神社神職 下豊津村
氷川神社神職

○同各道府縣共各所往復御用状等ノ儀従前貸錢拂人
足帳ヲ以テ繼立ツキタテ或ハ跡拂貸錢帳ヲ以テ遞送致置追テ其
貸錢驛遞察ニ於テ下ケ渡候分モ有之候所今般布告ヲ
ヨヒ候通り當七月朔日ヨリ國內一般郵便發行候上ハ
御用状等郵便ヲ以テ差立可申尤其地ノ模様ニ寄隔日
或ハ毎月五六度宛往復ノ地モ有之候間其定日ヲ難待
合マヒ至急ノ分ハ猶従前ノ通可取計事

○今般新大橋大川橋共自今人力車通行差許サル但シ
馬車并ニ大八車等ハ是迄ノ通可相心得旨府廳ヨリ達
シコレアリタリ

○今般文部省ニ於テ學制御確定相ナリ近日御發達ユ
レアルヨシ

○七月上旬京都府ノ布令ニ從來ノ流弊シラヒ七月十五日前
後ヲ以テ盂蘭盆會ウラハシト稱シ精霊迎へ灵祭杯トテ未ダ熟
セサル菓穀ヲ採テ佛ニ供シ齋敗ウケシ易キ飲食ヲ作りテ
人ニ施シ或ハ送り火ト踰シテ無用ノ火ヲ流シ或ハ川
施餓鬼六齋念佛歌念佛ナト無謂事共ヲ執行シ或ハ六

道ノ迷ヲ免ルトテ堂塔ニ一夜ヲ明シ又八千日ノ功德ニ充ルトテ之レガ為ニ數里ノ歩ヲ運ブ等畢竟悉ク無^{ナキ}誓^{ナキ}ノ謬說附會ノ妄誕ニテ徒ラニ光陰ヲ費シ無益ニ天物ヲ暴殄シ且追々文明ニ進歩スル兒童ノ惑ヲモ生シ候事ニ付自今一切令停止候事

○先般 主上御洋服ノボタン 皇后宮御筭御釧環

佛蘭西へ御詔へ有之シ處昨令御取寄セ相ナリタル由

○今般文部省ヨリ御達シニ海外留學生資金送輸ノ期月左ノ通更ニ改正候条私費留學ノ者へ金子差送り候向ハ期月ノ前月中明細書相添當省へ可相納事

但此節可差送分ハ今般限り當月中ニ可相納事

- 一 米國清國ノ方 其年下六ヶ月分 三月
- 一 歐洲ノ方 其年上六ヶ月分 九月
- 一 歐洲ノ方 其年下六ヶ月分 正月
- 一 歐洲ノ方 其年上六ヶ月分 七月

○横濱、神戸、長崎、三開港場ニ於テ邏卒ノ勤惰大ニ不同ナリ横濱ノ嚴重且親切ナルハイフ迄モナシ神戸ニテハ稍巡邏ノ体ヲナセ凡未タ人民防護ノ意ナシ長崎ニ至リテハ更ニ甚シク警ニ防護ノ意ナキノミナラス猥^ニリニ人民ヲ驅逐シ巴カ威權ヲ誇張シ人民モ亦邏卒ノ恩ヲ不知隨カツテ盜賊押込ノ患モ多ク裸体往來男女混浴等ノ禁令アリト雖凡其弊未タ全ク不止交際ノ今

日ニ當リテハ内地ノ開港場ハ何地モ一般嚴重ニ之ヲ
リタキナリ

○支那上海ニ在留セル友人某ノ書翰ニ云フ支那政廳
ニ於テ近頃耳曼英吉利ヨリ大炮十六門水雷火十個
ヲ買ヒ入レ天津ノ港口ニ備フル由ニテ火輪船ニ積込
ニ既ニ上海ニ到着セリ

○同支那ニテハ武備學術等ニ意ヲ注ク様ナレ氏總テ
市政ノ不嚴人民ノ固陋風俗ノ紊亂街衢ノ不潔等ハ更
ニ舊弊ヲ一掃スルノ策ナク男子ハ依然タル牛尾髮女
子ハ從來ノ馬蹄足突ニ堪タリ且ツ阿片烟ノ行ハル

年々甚シク毎歲所費二千四百万幣ニ至レリ支那輸出
ノ茶及ヒ金銀ノ直價ハ大概阿片烟ヲ以テ償ハルト云
○同香港ニ日本東京ノ婦人二名男子二名小兒三名渡
海シ予只輕業ヲ真行セリ看客コトノホカ群集セルヨ
シ又十名バカリヲ新タニ横濱ヨリ雇ヒ入レ一同歐洲
ニワタリ處々ニ於テ其技ヲ演シ明歲ニ至リ歸朝ス
ト云ヘリ

○此頃鍛冶橋御門内ニテ毎夜喇叭ノ音蹄令ノ色相聞
ヘ銃隊運動ノ様ニモ思ハレ深更ニ及ンテ甚タ不審ノ
ヲナレハ元津山邸兵不察番ノ者聞認メ竊カニ窺ヒ

見ルニ凡ソ二小隊程整列セリ愈怪シク間近ニヨリテ
之ヲ見レハ失セテ跡ナシ此全ク狐狸ノ所業ナラント
云ヘリ蓄類スラ西洋ノ真似スルハ實ニ抱服ニ堪タリ
○從五位小笠原長國ヨリ東京府へ届書ノ写
臣長國 厄々長行 儀戊辰ノ年奥州へ脱去仕其後函館ヨ
リ洋船ニ乗込折柄風浪悪敷竟ニ海外ニ漂泊シ疾ク歸
朝可仕ノ處宿病相発シ其期ヲ不得處々流寓罷在候
趣ニテ今般病ヲ推テ歸朝仕候即時當人自訴可仕ノ處
昨今殊更病氣甚敷精神昏瞶言舌不分明ニハ候得共只
管戊辰以来方向ヲ誤候段先非後悔重々奉忍入如何様

ノ嚴科ニ被仰付候共 皇國ノ一塊土ニ相歸シ候ヘハ
聊遺憾無御坐候此段 臣長國 ヨリ其御筋へ致歎訴吳度
旨申聞候外他事無之候依之不取敢前条御届申上謹テ
何分ノ御沙汰ヲ仰キ奉リ候以上
○七月廿日頃神奈川縣管下戸塚宿ニ於テ大山講中東
京石工職横濱仕立職トノ争論ヨリ終ニ多人數ノ鬪撃
トナリ双方共怪我人多カリシトゾ右ニ付同縣官負鎮
撫トシテ出張相ナリタル由横濱新聞ニ見ヘタリ
○先般朝鮮國ト交際ノ事件ニツキ 吉岡森山両名ヲ差
遣ハサレシ處彼國ニテハ益拒絶論ヲ主張シ十年ノ後

ナラテハ^{ハシ}回^{カクシ}答ナリ難ト云ヘリ因テ西氏モ過日歸朝セリト或人語レリ

○府下兩國橋邊水茶屋ニテ或人羨麗ナル洋服ヲ着シ銀鎖^{エリ}リヲ襟ニカケ懷中時計所持ノ体ナリシカ誤ツテ鎖ヲ引揚ケシニ天保錢一枚ヨク、リ付タリ傍人不覺失笑セリトゾ

○七月二十一日曉横濱港内碇泊ノ「アメリカ」號飛脚船上等部屋ヨリ出火シ三百人ノ旅客一同周章^{アワテ}シ火ニ投シ水ニ溺レ死スル者十余人^{乗組ノ中我國ニ及ヘリト}ソ實ニ可憫^{アレム}ナリ貨幣先ニ荷物等モ多分ニ積込シカ

盡ク燒失セリ租稅寮巡警吏前田定常船番トシテ乗組居タリシカ消防盡力ノ際誤ツテ溺死セル由

○或書生ノ詰シニ府下駿臺學舎教師^{逸人}某兼テ並譽マリシ處近來ハ業ヲ怠リ書生ノ教育徒ツテ惡シク相ナリシニ付條約期限ニハ相違シケレ^氏不得已之ヲ断ハリ他ノ教師ヲ招請セル由

○府下第五大區下谷泉橋通三枚橋^元先手組邸内ニ住居セル同所西町管轄ノ町人山本某ト云ル者アリ元來江及^塵ノ農ナリシカ或ハ舊^膳所藩ノ士族ト唱へ或ハ佐賀縣上族ト唱へ又或ハ元板倉知事ナリト称シ黒

地ニ山本ト染メナシタル半臂ヲ着セシ僕兩名ヲ左右
ニ随カヘ馬ニ跨ガリ市街ヲ往来セルヲ以テ興トセリ
然ルニ近來ハ以前ノ驕僭ニ反シ元穢多町ナル彈氏ノ
家ニ立入恰カモ譜代恩顧ノ者ノ如ク彈氏ノ履ヲトリ
見苦シキ追彈氏ニ媚ビ諂ラヒ終ニ同氏ノ周旋ニテ新
タニ借馬場ヲ開キタリ打カラ慶丰目兆ニ霽レ小紋ノ
麻上下ヲ着シ新工風ノ馬場開トテ俳優メキタル様ヲ
ナシ衆人ノ放觀ニ供セシトソ
○近來府下ニテ春画ハ勿論其他風俗ニ關係スル只賣
買ノ儀堅ク禁止セラレシ處神田丸太河岸小舟町等ノ

各所ニテ所謂^{コタカ}過^カ君ト稱フル者往來ノ客ヲ誘ナヒ強テ
淫ヲ賣リ色ヲ鬻キ活計トセル者幾百人ナルヲ知ラス
淫荒乱惰ノ風俗真ニ可愧ノ至リナリ此地ニ住セル人
ハ見ナレ聞ナレ左程ノ事トハ思ハヌナレ氏畢竟教化
ノ行届カサルヨリ斯ク惡習モ生スルナラン此等ノ事
コソ先ツ禁令アリタキナリ
○此頃奈良縣ニ於テ嫩草山^{ワカクサ}へ牧牛場ヲ開カレ兼テ
リ廿五六町ノ柵ヲ結ヒ多由ノ牛羊ヲ牧畜セラレ由
往昔ハ三笠山嫩草山等ハ古人ノ歌集ニモ散見シタル
名勝ノ地ナリ殊ニ神楽ト唱ヘ許多ノ廉ヲ放チ春夏ノ

際青草燃出シ頃ハ一層ノ景致ヲ添ヘタリ然ルニ今也
 牛羊ノ牧場トナル世態ノ變換轉昨ニ暇アラス嘗テ東
 京東叡山ノ林樹ヲ伐拂ハレシ處西洋人スラ其風致ヲ
 損セシヲ謗レリ風景ハ固ヨリ無用ニ屬スト雖氏人目
 ヲ慰サメ心氣ヲ養フ天然ノ養生法ナリトキクサレハ
 嫩草山ニ牛羊ヲ牧スルヨリ更ニ馬ヲ牧蓄セハ又一層
 ノ光景ヲ倍スナラント或人語レリ

○七月中木更津、印幡、足羽、相川ノ諸縣暴風雨強水ニテ
 田畑等ヲ殞害セル由追々御面相ナリタリ

新聞雜誌第五十六號 終

報告

○理禮氏藥物學 文部大教授司馬先生閱 全十六冊

此書ハ米國華盛頓府病院長藥劑治療ノ碩學理禮先
 生ノ原著ニメ博ク群書ニ涉獵シ歐米諸大家ノ説ヲ
 參考シ就中「ベレラ氏」「グード氏」及ヒ「スチール氏」等ノ
 説ヲ基トシ近軌ノ新説綱羅シテ各藥ノ辨物性、原由
 產地、採製法、調製法、理學、化學ノ性状、試驗鑑質ノ二法
 健体作用、醫治性能、中毒症、解毒法、各種製劑用法、用量
 ニ至ルマテ簡ニメ盡セリ實ニ近世藥劑學ノ拔萃會
 英トイフモ誣カハルナリ方今醫學ノ開化日ニ新ニ月

ニ改リ駸々乎進ンテ止マス試ニ今日ヲ以テ十年前
 ニ比スレハ壑ニ霄壤ノミナラス新譯書ノ陸續刊行
 スル所以ナリ殊ニ藥劑書ノ如キハ諸先生ノ質問ヲ
 蒙ル毎ニ新譯ナキヲ遺憾トセリ今幸ニ拙舗ニテ此
 書ノ發兌ヲ許サレ刻已ニナリテ二篇ニ及ヘリ後篇
 次第ニ嗣刻スヘシ願クハ四方有志ノ諸先生賜顧購
 求シテ新說ヲ參考アラシムヲ

東京馬喰町二丁目

美蘭堂 島村屋利助

撰者伏テ四方ノ君子ニ告々奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
 其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及ザル處多シ願クハ同好ノ人
 何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
 ハ次第ニ刊行發兌スベシ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
 可シ無名ノ書ハ敢テ采入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘等望ニヨツテ出版スル事件

- 一 田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
- 一 新發明巧器及書籍等ノ賣買
- 一 產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一 金銀其外ノ貸借等
- 一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一 失物尋物等
- 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一 觀セモ集會等ノ引札
- 右等何レモ一行廿三字一度出板價三匁宛同事件ニ度分ハ九匁五分
- ニテ御引受イハシニ候

新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出版

當時發兌號ヨリ先キ二十冊分引受候向ハ定價ヨリ三割引
同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致
候又遠方取次賣弘方望シノ人ハ本局へ御引合上御相談可申候

本局

東京兩國若松町

新堂

東京兩國横山町三丁目

和泉屋金右門

東京芝三島町

和泉屋市兵衛

大塚齋橋通

河内屋吉兵衛

西京東洞院三條上ル町

村上勘兵衛

東京日本橋邊町

須原屋茂兵衛

大塚齋橋通

河内屋喜兵衛

大塚齋橋通

河内屋清七

東京日本橋

和泉屋仕造

賣弘所

